

○第15回国際植物科学会議(IBC)について

来年8月28日～9月3日、横浜において標記の会議が開催されますが、水草研究会はこの会議の協賛団体となっています。植物学会等の会員の方にはセカンドサーキュラーが送られていますが、それ以外の本会会員の方で御関心のある方は切手250円を同封の上、水草研究会事務局まで御連絡下さい。セカンドサーキュラーをお届けできます。

○会員移動

<新入会>

<退会 (会則8条2項による)>

〔 編集後記 〕

この度は会報の発行がたいへん遅れ、申し訳ありませんでした。予定では、遅くとも9月始めには仕上げるつもりだったのですが……。ちなみに、これは原稿の集まりが悪いか、会の活動が低調で潰れかかっているためではありません。全国集会は盛会でした(報告は次号)、今回の会報のページ数を切り詰めたのは赤字軽減のためです。

さて、冒頭のヒシ属に関する報告は高校の生物クラブの研究がもとになっています。磐田南高校生物部の手書きのレポート(B4版54ページ)を見たとき、このまま埋もれさせてはいけない重要な内容を含んでいると考え、特に御寄稿をお願いしました。日本のヒシ属の分類をどう扱うべきか、ようやく先が見えてきたという感じがします。

最後の湿地・湿原関係の文献目録は、1年ほど前からこつこつとワープロに入力していたものですが、今までにリストアップした文献だけでも相当な数になりましたので、今回、本誌に掲載させていただきました。10ページも使うと文句が出そうですが、分割するよりもこのほうが利用しやすいと判断しました。

次号はあまり遅れないように準備を進めます。短報などもたくさんお寄せ下さい。

(角野康郎)